日本オートルート
日程：2009 年 4 月 29(水)～5 月 3 日 2(日)
メンバー：L 白土(記録)、志満

立案から 2 年越しで日本オートルートのスキーツアーを成し遂げた。幸運にも天気に恵まれ、順調に進むことができ充実した大満足の山行となった

1/25000 地形図：立山、薬師岳、三俣蓮華岳、槍ヶ岳、穂高岳、上高地

　ヨーロッパオートルートは世界的にも有名なスキーツアールートである。モンブランのあるシャモニーから、マッターホルンのあるツエルマットまで、10 日間程かけて巡るロングルートであり、山スキーヤーの憧れである。この日本版が日本オートルートである。槍ヶ岳をマッターホルンに見立てて室堂からスタートする。標準日程は 4 日間だが国内としてはロングルートであり、これを目標としている山スキーヤーも多い。沢登りであれば上ノ廊下のような位置づけであろう。今シーズンの当初より、春の連休に日本オートルートに行く目標を掲げ、年明けより 4 ヶ月間、計画的にトレーニング山行を重ねてきた。日本オートルートにはテント装備で行くこととしたので、平ヶ岳 2 泊 3 日、槍ヶ岳飛騨沢 1 泊 2 日のテント山行がいいトレーニングとなり、これで山行イメージが固まった。今回のルートは広範囲にわたるので、山行計画書を富山県、岐阜県、長野県の各警察署、遭対、そして室堂の計 8 箇所に提出した。

4/29(水)快晴
扇沢 7:30～9:10 室堂 9:40～10:40 一ノ乗越 11:20～14:05 ザラ峠～15:00 五色ヶ原山荘

　下山後の車回収を考えて、車は 2 台で行くことにした。前夜に沢渡に集合し、志満さんの車をデポして白土車で扇沢に向かう。扇沢駐車場は空いており、下段の砂利駐車場には私の車 1 台しかなかった。車中泊する。翌朝は快晴であった。7:30 の始発のアルペンルートに乗り込む。あまり混雑していない。扇沢から 2 時間の行程でやっと室堂に着く。観光客でにぎわっている。外に出るとここも快晴。この時期には初めて室

室堂からスタート

鳶岳

堂に来たが、やはり 11 月より積雪量は多い。2 日前に降雪があったという。準備を整え、まずは一ノ乗越へ向かっていざ出発。多くのスキーヤーとともに登り、1 時間で一ノ乗越に到着。槍ヶ岳が遙か彼方に見えるが、その距離に違和感はない。適度に雪がゆるんだ東面の御前谷を快調に滑る。気持ちよく滑れる斜面はしばらくないだろう。2500m 付近まで滑り、龍王岳の尾根を巻くように右へトラバースする。鬼岳へ登り返した後、急斜面を滑り獅子岳とのコルへトラバース。獅子岳に登り返し、ザラ峠への急斜面を滑る。また少し登り返して五色ヶ原に出た。広大な雪面に五色ヶ原山荘だけが建っている。小屋には 13 人のイギリス人+ガイド 3 人の大パーティーが到着していた。彼らも日本オートルートなので、次の日から 3 日間、ほとんど行動を共にした。小屋では自炊したが、とても落ち着くのでゆっくり過ごすことができた。夕食ではレトルトハンバーグ 2 枚を食べてスタミナ補給。明日から 3 日間は晴天が続きそうなので、当初予定したスゴ乗越のテント泊は取りやめ、太郎小屋を目指すこととした。

スゴ乗越小屋は雪の中

4/30(木)快晴

五色ヶ原山荘 4:05～4:35 鳶岳～10:15 スゴ乗越～13:15 北薬師岳～14:35 薬師岳～16:20 太郎小屋

2:30 起床して朝食を食べ、ヘッドランプを付けトップで出発する。鳶岳に着く頃に外人パーティーが三々五小屋を出発しているのが見えた。鳶岳からの下りは板を背おって歩行アイゼンで下ったが、外人パーティーは南斜面を滑ってコルまでトラバースしていた。我々は彼らより 30 分早く出発したがここで一気に抜かれた。この急斜面を滑り降りるには勇気と技術が必要だが、スキーで滑れば圧倒的に早い。その後の越中沢岳からの下りも同じパターンで、その差を見せつけられた。改めてスキーの機動力の高さを実感すると共に、自分達の技術力の低さを悔やんだ。勉強にもなった。日本オートルートのガイドブックには我々と同じくアイゼンで下りるように書かれているが、外国人の彼らは恐らくヨーロッパアルプスでこのような厳しい場面を何度も体験しているのだろう。スゴの頭からの下りは彼らを見習ってスキーで滑り降りることにした。斜度は 30°くらいだがカチカチ。志満さんは苦労していた。コルからまた長い登り返し。スゴ乗越小屋は屋根が少し雪面から出ているだけだった。ここまで 6 時間で、まずまずのペースだ。太郎小屋には十分到着できるだろう。北薬師岳への登りは長かった。北薬師岳からの下りも我々は歩行アイゼン、彼らはスキー。登りでは追いつくのだが、こういった場面で抜かれる。

安全第一なので仕方がない。薬師岳からはかなり遠くに太郎小屋が見えた。薬師平までとてもり長い斜面を快適に滑ることができた。薬師平から少し登り返して太郎小屋に到着。宿泊者は、外人パーティー以外は我々を含めて 6 人だけで意外と少なかった。連休後半は混雑するだろう。部屋は 2 人だけの貸し切りだった。乾燥室もあり、汗でぬれているブーツのインナーもばっちり乾いた。我々が小屋の混雑を警戒していたヘリスキーは連休後半のみで、片道で 3 万円也。

薬師岳からの快調な滑り

5/1(金)快晴
太郎小屋 3:55～5:30 北ノ俣岳～8:05 黒部五郎岳～13:10 双六小屋

2:00 に起床し 3:55 出発。今日も天気は良さそうだ。トップで出発する。北ノ俣岳までは緩い登り。北ノ俣岳で休んでいると外人パーティーに追いつかれた。登りも速い。赤木岳はトラバーして時間短縮。志満さんはトラバースが苦手で、足が疲れるという。そんなはずはないのだが・・・。「両足を肩幅くらいに開いて」、「山側の足を少し前に出して」などと北アルプスのど真ん中でレクチャーする。少しずつつかんできたようだ。山スキーでは急斜面のトラバースは必須であるので、十分にマスターしてもらいたい。黒部五郎岳への登りは少し急だ。稜線に出たが山頂はパス。北側の肩からドロップする。上部は 35°くらいあるが、雪はやや緩んでいるのでターンできた。槍ヶ岳方面から何度も見た黒部五郎のカールを快調に滑る。広大カールに我々2 人だけ。しかも快晴無風。極楽、天国、気持ちいいことこの上ない。山スキーは素晴らしい。夏の縦走のときに休憩した大岩だけが顔を見せ、そのほかは一面真っ白。そのまま快調に滑って黒部五郎小屋に到着。三角屋根の冬季小屋は快適に泊まれそうだ。三俣蓮華岳までまた長い登り。双六岳のコルまで忠実に稜線をたどり、双六岳はパスしてトラバースする。最後に双六小屋テン場裏の斜面を滑って、双六小屋に到着。4 年前の連休に志満さんと双六小屋に来た。3 泊 4 日で営業小屋定着自炊してこの辺りを滑りまくった。あのときも毎日天気がよくて楽しかった。いつかは日本オートルートと思っていたが、それを今実行している。我々も成長したものだ。急斜面は滑れないけど。昨シーズンより双六小屋は春の連休は営業していなく冬期解放されているが、外人が陣取っているので我々は外でテント泊した。夕食は志満さん食当のすいとんチーズソース和え。

5/2(土)快晴
双六小屋 4:00～11：50 千丈乗越～14:50 槍ヶ岳山荘～16:30 槍沢ロッジ～18:50 横尾

2:00 起床し、4:00 出発。板を背負って樅沢岳まで登る。樅沢岳からの下りが難所とガイドブックには書かれていたが、トレースがないナイフリッジで、その先の下りもどうなっているのか見えない。私が空身で様子を見に行くが、かなり厳しそうだ。南側に少し下り、ハイマツ帯をトラバースしてみるがこちらも厳しそうだ。一旦戻ってしばし考える。もはやここまでかと思っていると外人パーティー登場。ガイドを先頭に 5 人×3 組のコンテで突入。15 人も歩いたのでトレースばっちり。ガイドにお礼を言って後に続く。無事通過。志満さんはかなり緊張していた。ここからは長い長い西鎌尾根を板を背負って進む。左からは硫黄尾根が合流し、正面には立派な北鎌尾根がよく見える。昨年の連休に田中さんと斎藤さんと北鎌尾根を歩いたことがよく思い出される。北鎌尾根はやはり格好いい。やはり特別な存在だと思う。西鎌尾根の上部を見ると千丈沢へ伸びるシュプールが 4 人分見える。えっ？あそこを滑ったの？さらに肩からもシュプールが・・・。その右側に見える飛騨沢がとてもフラットに見える。3 週間前にあの飛騨沢を滑った。飛騨沢はあまり急には感じなかったけど、肩から滑るなんて。我々にそんな発想はまったくない。世の中上には上がいるものだ。でも実際にドロップ地点から見てみたら、滑れるかも、でもこけたらアウト、と思った。千丈乗越から一旦飛騨沢に下り、飛騨沢を登り返す。飛騨乗越はこのまえ登ったから、西鎌尾根上部を目指す。上部は急になってきたので歩行アイゼンに切り替える。そして槍ヶ岳山荘に到着。振り返るとずうっと遠くに立山が見え、薬師岳も遙かかなた。黒部五郎もかなり遠い。あんな遠くからよく来たなあ、と我ながら感心する。やっぱりスキーはすごい。このまま小屋泊も考えたが、槍沢を下ることにする。槍ヶ岳山頂はパス。3 週間前に登頂しているので今日はいいよね。外人パーティーのトップを務めていたイギリス人ガイドに、ルートファインディングとトレースの礼を言う。彼らは槍ヶ岳山荘に泊まって明日は涸沢に行くという。そして下山後に富士山でスキー。日本をマンキ

双六小屋でテント泊

槍ヶ岳山荘への最後の登り

ツしていますね。すでに 15 時なので雪が固くなる前に早く下りよう。広くて長い長い槍沢を滑るのは 2 人だけ。でも足がもたない。槍沢ロッジのテン場にはたくさんテントがあり、20 張りくらい。さらに下る。槍沢ロッジまでスキー滑って下りられた。ここからは板を背負って登山道を歩く。しかしいくら歩いてもあまり進んでいない。雪がないので歩きにくい。スキーに比べて急にペースが落ちる。やっぱりスキーは速くて楽だなあ。暗くなる前にテントを張りたいので横尾までとする。今日は 15 時間行動。がんばりました。日本オートルートを歩き通した達成感に浸る。まだ下山してないけど、気分はもう下山。明日から槍や涸沢へ向かうと思われるテントがたくさん張ってあった。

5/3(日)晴れ
横尾 8:00〜10:45 上高地

　起床時間は決めていなかったけど 6:00 くらいに起床する。時間を気にしなくていいのでとても気楽。晴れているが、やや高曇り。やはり今までの晴れとは様子が違う。昨日ここまで下りておいてよかった。これから入山するパーティーがどんどん上がってくる。板を背負っている人はほとんどいなく、我々は目立つので視線を感じる。徳沢にもたくさん人がいてテントもたくさん。上高地に近づくにつれて観光客率も上がり、明神はすでに観光地。もう雪はまったくない。きっと観光客には雪の槍沢はイメージできなくて、なんでこの人達はスキーを背負っているのだろう？と思っているだろう。さらに視線を感じる。観光客でごった返す上高地に到着。バスで沢度に戻り、志満車に乗り込む。竜島温泉に寄った後、扇沢に戻った。こちらも観光客でいっぱいだ。私の車しかなかった駐車場は満車。高速 1000 円効果もあるだろう。

　今回の山行でロングルート山スキーの醍醐味を垣間見た気がする。次はヨーロッパオートルートだ！その前に急斜面を滑る修行をたくさんしないといけない。

槍沢を快調に滑る

西鎌尾根

「にっぽんのオートルート」を終えて・・・

今、目の前に広がっているのは槍ヶ岳から望むオートルートの峰々。心の底から込み上げてくるものがあった雄大な景色、いくつもある難所、長い々行程、豪快な滑降、苦しみ、喜び、恐怖心、そしてプレッシャーたくさんのドラマがある中精神力と体力、技術を駆使して走破し遂げたそして最後に得たものは強烈な充実感や達成感であった。そう、この気持ちを味わうためにここまで頑張ってきた。

「本当に・・・本当に嬉しい」

槍ヶ岳直下、槍沢大斜面の滑降では

＜オートルートで出会った人たち、すべての山々に感謝したい。ありがとう☆＞

そんな思いを込めながらのフィナーレとなった。

＜課題＞

まだまだ未熟なところがあって今回の山行で課題をいくつも残した。硬いバーンでの急斜面の滑降、アイスバーンでの横滑り、ルートファイディング、アイゼンワーク。今後はこれらを克服して安全でゆとりのあるスキーツアーを楽しみたい。白土さんお疲れ様でした。ハードだったけど感動の５日間でした。ありがとうございました。

志満智恵

入山４日目、西鎌尾根を行く